東京大学は国際的に活躍できる多様な人材を確保しようと、来年度の入試から、これまでの後期日程を廃止して推薦入試を導入することを決め、募集定員は、１０の学部で合わせて１００人程度となっています。

推薦入試の願書の受付は今日から始まり、出願できるのは各高校から男女一人ずつまでで、高校の調査書のほか、高校での活動実績を示す書類や語学力の説明書などで、一次選考を行い、その後、面接などの二次選考を経て、大学入試センター試験の成績も含めて評価を行い、合格者を決めるということです。東京大学は「特定の分野や活動について、卓越した能力や、極めて高い関心や学ぶ意欲を持つ学生を求めたい」としています。

また、東京大学は来年度の入試から「特色入試」を導入します。大学で何を学びたいかや、卒業後どのように生かしたいかを書いた「学びの設計書」を提出させ、志願者の学ぶ意欲や志を評価するもので、今日から一部の学部で願書の受付が始まります。

文部科学省によりますと、来年度の入学試験では、推薦入試や、面接や書類などで総合的に評価するＡＯ入試を行う国公立大学が調査を初めて以降、もっとも多くなっているということです。私立大学を含めると、こうした入試での入学者は全体の４割を超えているということで、入試の多様化の傾向が進んでいます。